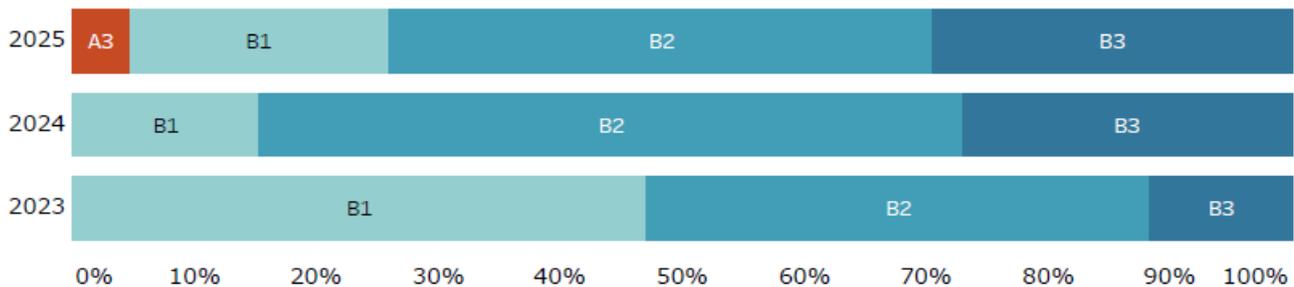


2025年 開成 算数

過去3年の思考コード別出題割合は次のようになります。高度な論理的思考力が求められる B2、B3 の問題が大部分を占めます。大問1は小問が2問(単位換算、割合)、大問2は場合分けして調べる問題、大問3は速さ(グラフ)、大問4は立体の切断でした。全体的に「情報の正確な読み取り」がポイントとなりました。ルールを正しく読み取って活用する力、条件や状況を読み取りながら全体像を把握する力、誘導に従って読み取っていく力など、読解力が物を言う問題でした。



大問1(1)は開成ではめずらしい単位換算でした。解答の単位が a となるので、単位を m にそろえて計算しますが、とても面倒です。計算ミスのないように確実に得点したいです。(2)は割合の問題でした。線分図を使って整理しようとするとうちやめちやめなことになります。「最後に残ったお金ははじめの所持金の4割より480円多かった」とありますので、残金に注目します。「所持金の9分の1より20円安い」を「所持金の9分の8より20円多い」のように置き換えて、割合を整理して立式します。ここも計算が面倒です。最終的に所持金は2025円と求められますが、「商品Aの値段」を答える点に注意します。

大問2は目盛りがかかれた板を長方形に区切っていく問題でした。ルールを正確に読み取る必要があります。(1)はルールの理解が問われる問題でした。(2)はポイントが20、30となる場合を求めます。20なら上から2種類、30なら上から3種類ずつ区切っていきます。(1)(2)は確実に正解したいです。(3)は「なるべく大きい区切り方」を答える問題でした。2024年の開成でも同じような出題がありました。最大を求めようすると沼にハマってしまいます。なるべく下の行にたくさんの長方形をつくっていきませんが、およそのところで区切りをつけたいです(左から縦に4、3、2、1、空いた所に上から8、7、6、5と並べて40でもよいかないと思いました…)。

大問3は速さのダイヤグラムでした。情報量が非常に多く、うっかり読み間違えてしまうと致命的です。特に、(1)で間違えてしまうと後続の問題が全滅となってしまいます。差がついた問題と言えます。大問3は一旦飛ばして、先に大問4に取り組む方がよいと思います。大問4は立体の切断でした。2023年の開成でも出題があったように、作問者の誘導に乗って情報を読み取っていきます。一見、面倒に見えますが、ていねいな誘導がかかっているため、(1)は取り組みやすいと言えます。(2)三角形AHKまでは取っておきたいです。

大問3を後回しにして、他でしっかり得点できたかどうかで差がついたと思います。あくまでも予想ですが、大問1、大問2(1)(2)、大問3(1)、大問4(1)、(2)三角形AHKが取れていれば、およそ6割5分には達することができると思います。